

令和2年度第2回太白区区民協働まちづくり事業評価委員会 議事録

○日 時：令和2年7月4日（土）午前9時～12時15分

○場 所：太白区役所4階第1会議室及び第2会議室

○出席委員：青木ユカリ委員長、岡部邦彦副委員長、岩間友希委員、笹崎久美子委員、佐藤浩委員、菅原玲委員、本田茂委員

○事務局：木田まちづくり推進部長、山田まちづくり推進課長、千葉地域活動係長、竹内地域活動係主任、高橋地域活動係主事、佐々木地域活動係主事

○会議内容

1 開会

2 第1回議事 【非公開】

議事録署名委員に本田委員を指名した。

- (1) 評価基準・採点方法について説明
- (2) 助成予定額について説明
- (3) 申込事業の概要説明

3 まちづくり活動助成事業に係る事業計画説明会 【公開】

- (1) 開会
- (2) 事業計画の説明及び質疑応答

※新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、各申込団体は入れ替え制としたため、説明会の進行や採点方法、選考結果の発表時期等については、団体毎に個別説明し対応。

「金剛沢緑地愛護協力会」による事業計画説明及び質疑応答

[委員] 大きな構想なので時間がかかるし、一度走り始めると長期的にお金がかかり続ける。どうやって関係団体のモチベーションを維持しながら協働をしていくのか。その中で1年目はどういうことをしていくのかがわかると判断しやすい。

[説明者] 当公園愛護協力会だけでここを守っていくのは不可能。地域に3連合町内会があるが、八木山テラスのパスを入れたチラシを作って周知して、その中でボランティアを募集して、イベントを周知していくことから輪を広げていきたい。小中高大学生を巻き込んでいって、竹ちぐらを2年ごとに作っていきたい。学校対抗や地域でつくることで運動論ができるのではないかと、ここを舞台に関わり合いや福祉につながる取組みをしていきたい。

[委員] 1年の準備期間があって、竹ちぐらができるのは2年後なのか。

[説明者] 竹は無料でもらえる竹農家がある。放置林から回収して小中高生に作ってもらうという運

動論。竹農家との交流も考えたうえで竹ちぐらを作りたい。

[委員]こういう場ができれば子育てにも役立つのではと思うが、この中に盛り込まれていることがたくさんある。皆さんの運営のやり方としては、運営のマネジメントが皆さんで、実働はボランティアがするのか、協力グループがいるのか委員自らがやるのかという実働とマネジメントのところが知りたいと思う。

[説明者]総会で、あなた方はプレイングマネージャーだと、覚悟して会員になってくれと念押しをした。実働としては愛護協力がメンバーとしてやるけれど、それだけだと愛護協力の活動に終わってしまうので、地元のボランティアや中学生を巻き込んだ形で草刈りとか花を植えたりという活動は一緒にしていきたい。

[委員]環境、福祉、協働、体力という4つくらいの柱があるので、マネジメントと活動する人を分けて、体制整備をしていけるともっとスムーズに動くと思う。ベンチ整備で5万円計上されているが、5万円程度で済むのか。草刈機は99,000円で今後どの程度使われる想定なのか、今まではどのように補填されていたのか、借りられていたのか、今後購入する必要性を教えてください。

[説明者]草刈機は19,800円だと中国製だが、6、7年はもつ。きれいな緑地にしたいのが大前提。組織的にマネジメントする人が必要ではあったが、これから考えていきたい。大きな舞台になったら必要かもしれないが、今は余裕がないため、我々が汗をかくしかない。竹は無料で結構無尽蔵にあり、竹で編んだベンチやツーバイフォーのベンチも作れる。

[委員]この4月に発足したということだが、その前段にまちづくり研究会の部会として前段の活動があった。部会の活動が全部スライドしたのか、それとも部会は継続しているのか。

[説明者]発展的解消をして愛護協力の会に吸収されたと考えていただいてもよい。

[委員]メンバーの皆さんも同じか。

[説明者]大概はそうなるし、必要な方には入っていただいた。今は機械も持ち寄りでガソリン代も自前で行っているので、助成金をいただければありがたい。草刈機も市民センターや町内会に借りていたが、それではだめだということで愛護協力の会をスタートした。

[委員]今回申請された内容は、助成金の上限額もあるため、申請内容が全て採択されるかはこの後だが、479,000円を下回った場合はそれに応じた活動をされるのか。

[説明者]助成をいただければ助かるので、ありがたい。区の公園課にも伝えているが、なぜこんなに立派な緑地をこんなにほったらかしにしているのか。我々で対応はしていくが、助成をいただければ助かる。

[委員]最終目標はテラスだと思うが、事業規模としては大きい。当助成金で応援できるのは枝葉のところだと思うが、緑の環境プラン大賞を獲得できなかった場合でも活動はされるのか。

[説明者]800万円の助成は全国で3団体くらいしか受賞していないので、かなりハードルは高いが、山は登ってみないと分からないのでエントリーはしたいと考えている。助成金をいただければ、

活動に弾みはつく。皆さんが憩える場を一步一步進むしかない。そのうち助成金もいくらかいただけるのかということでもまずやってみたい。地元の農家（竹）や中学生の力、地域の力で作りあげてを循環的に行ってムーブメントを起こしたいので、800万円をもらえなかったらやらないという活動ではないということをメンバーにも確認している。

[委員]緑地帯は民有か。

[説明者]市有地である。

[委員]草刈りという過酷な作業もあるので、皆さんを巻き込んでいくにはイベントをしながら、2年目はこうしていきたいと書いてあるが、今年度と来年度の人を巻き込んでいく仕組みはどのように考えているのか。

[説明者]現在パスを作っており、そのパスでチラシを作りたい。それで呼びかけをしてボランティアを募集する。小中高、大学にも説明して協力を得ていきたい。地域を巻き込まないと意味がないので、全体のアライアンス体系は作っていきたい。

「手しごとAKIU」による事業計画説明及び質疑応答

[委員]事業をしている方が集まって、事業を展開していくように聞こえる。まちづくりの観点だと地域の人といかに交流して連携していく視点を大切にしているが、この点をもう少し伺いたい。

[説明者]工芸の里で仕事をしていて今年で32年。30年前と工芸の考え方や地域も変わってきているし、観光が一大ブームで今後コロナの影響で変わっていく。秋保の自然を生かしたPR、温泉を活かしたPRということで、工芸も秋保にはあるんだよというところを作り手の顔も見せながら動画で見せていく。必ずしも自分たちの商売に結び付くことではなく、地域を活性化するためのツールになると思う。最終的には観光に来ていただきたいが、来ていただけないのであれば、こういう町ということを発信するためにコンピューター上で売るということも考えないといけない時代になってきた。

[委員]秋保でも色々活動されている人がいるが、そういう人と交流したり、一緒に情報発信しているという話合いや取組みはされているのか。

[説明者]手しごとAKIUの会というのは、食べ物を作ったりしていて工芸品だけじゃないことが特徴で、食べ物があると工芸品が生きてくる。工芸品だけ売ろうというのではなく、地域全体が潤うために、みんなの連携は必要で、これからも仲間と色々考えながらやっていきたい。地元の子供達にしっかり地元になにかがあるかを理解してもらおう。秋保は人口が少ないので、例えば秋保の小学校だけであれば、地元の木工品を使って給食を出すといった、子供たちに自分達の仕事を理解してもらうための取組みができる。こうした取組みを並行していくことで、地域に工芸があったねという地元の人々の意識改革も必要で、まちづくりにつながるのではと考えている。学校で昔は工芸の里でワークショップがあったのに、無くなったのは先生方が理解していないということもあると思うので、地元で地元のものを見てもらうためにも広く周知したい。

[委員]メインは秋保の手しごとのブランド化ということで、費用もコンテンツ作成代に充てられていて、どうしても事業者のビジネス視点の匂いを感じる。まちづくりという助成金の性質上、スライドに地域の人への還元の方法や住民にどんな具体的なメリットがあるのかというところが1枚も入っていないところが気になる。地域の人に自分たちのことを伝えたいという気持ちも伝わってくるが。

[説明者]宣伝する部分の基本部分を動画という形で紹介したいと思ったが、自然の中で仕事をしているが、自然を写真で伝えながら秋保の町を伝えることをムービーで作りたいということで、地域の人のためにならない、ということではなくて、そこで物を作っている人がいるから秋保温泉に行くと言わせたい。PRにはなると思う。

[委員]秋保にいる人がどういったメリットを具体的に受け取るのかを知りたい。

[説明者]温泉だけが有名なので、地域の人意識改革も必要なので、地域全体で秋保に来た人をおもてなしするという気持ちにならなければ、秋保のブランド力が足りないということになる。地域の人意識改革と一緒にしていきたいということが私の願いである。秋保地域が一丸となって、地域をもっと盛り上げていくことが必要だと思うので、すごいビデオができたと言わせたい。

[委員]動画を作るというアウトプットよりも、地域の結束を深めるということが真にやりたいことのように聞こえてくる。収支を見ると、動画1本10万円というのは、一言でいうと中途半端な価格。私もYOUTUBEなどを見るが、動画はものすごい数が発信されていて、内容がすごく大事になる。動画を1本10万円で3本作ったとしても、例えばいつの間にかできていたね、とか、ああ、あったね、というのでは地域の方は自分事にできないのではないか。ホームページも作ったら運用費が発生するし、どう捻出していくかというのものもあるし、例えばアウトプットそのものにお金をかけるのではなく、地域の人にどういう動画を作ったらよいと思う？というリサーチをすることに費用をかけたり、もっと桁をあげて持続化補助金に挑戦したり、ということは考えているか。

[説明者]商売をやっているけど、広告にお金をかけられないので、手ん店で一緒に協力してくれているデザイン会社だったり、カメラマンを利用して賄っていききたい。ホームページを作ってももの売るとなったら、お金を出し合っていないといけないと会員には言っている。宣伝のための活用資金ではなく、そこにいくまでのPR動画や写真の制作費。16工房全部となると200万、300万じゃ足りないが、自分たちの予算の中でやっていきたい。2、3年後に商売ができなくなっていたら洒落にならないので、すぐにでも立ち上がってやっていく必要があると感じている。

[委員]発言を聞くと、内側からの発信という視点をひとつ捉えているのはいいが、本来は需要者である外側との需要視点、内と外と交流があって、ヒト、モノ、カネの全てが循環していくと考えている。外側とどういう交流をしているのか。地域の課題として外側をとらえた時に皆さんの活動が解決につながると考えているのか。生活という視点で、トータルライフを考えて生活空間をつくりながら幸福に向けて生きるが、ひとつのツールとして職業があると認識している。外側の

需要があって感動して使ってもらって、それによって生活が向上して幸せになる。その糧として感謝の度合いがゲージとしてお金に代わる。そこをゲージとして社会活動として貢献して行って循環して内と外の交流が働くと考える。皆さんの発言を聞くと、どうしても内側からの発信に聞こえる。いいものを作る、いいところだから来てほしいと聞こえる。どのように外側との交流を図るのか。秋保工芸の里は、外から来て工芸を始められている方が多いと思うが、どうして秋保に来て交流し始めたかということを含めて、手しごとAKIUの方々と連携していくことが必要だと思うが、どう考えているのか。

[説明者]工芸品といういい物を使うのは、心の安らぎを求めて物を使うのだと思う。そういう考え方が無くなってきている。それで秋保に来た人には、ワークショップをしてもらっている。作っている人間の話を聞いてもらう、手を動かすのは子供にとってもいいことということで、ワークショップをしている。売れなくなりつつあるのが淋しいので頑張らなくてはいけない。秋保は自然や温泉というファクターがあり、助けられている。30年商売をして感謝を表したい。若い作家が秋保を目指してやってきている。県外の出身だけど工房を構えたりしている。手ん店をすることで、若い作家が集まって人が増えれば人口も増えるのでそれを目指してやりたい。将来こういう仕事に就きたいということを見せる機会を秋保ができるのであれば、地域に貢献できると考えている。

[委員]キーワードも聞いた。一部の人がおもてなしをするのではなく、地域全体でおもてなしをするということが響いた。今回の助成金の対象が地域の課題解決を図るということで色々な課題が秋保にはあるので、例えば住民が参加して疎遠になっている住民がまとまって自治力が上がるのか、なにかしらの課題解決と、自治力の向上、地域の魅力を高めていくというこの3つが対象の事業になる。事業はお聞きすると、まず最終的な到達のビジョンが必要だが、秋保みんなで地域を巻き込んでおもてなしをすることがゴールだと思うが、それだけだと漠然としているので、一つひとつ目標を立てていくことだと思う。小学校とは秋保が連携しやすいとか、AKIUに所属している個々の工芸家単位では、他の団体と連携を組んだりなどは既に行っていることと思う。いってみっぺ秋保にも手しごとのコースもある。団体としての手しごとAKIUとなった時に、個々の工芸家単位ではできている連携や協力が消えてしまっているのがもったいないと思って聞いていた。収支が動画の作成で、事業計画が動画作成のための計画になっているので、今年は巻き込むというところで、手ん店で何を巻き込んでいこうとか、地域と工芸家との中でどういう連携をしようかという計画があって、その中の一つに動画のコンテンツがあったり、小学校の体験授業があったり、手ん店に地域のブースを作ってそこに参加してもらったりという費用があったりすると経費と計画と目指す目標が繋がって、助成事業としては、地域の魅力がよくなっていくように見える。この流れを作る要素はあると感じたので、表現の仕方をもう一度整理してもらえるといい。引き続き維持してまずは地域の方にぜひ身近に感じてもらうということを入れ込んでいただきたいと感じた。

[委員]富士山に登る時に富士山に登るという目的があつて、ベースキャンプを立てる場所はその都度移すとしてもトータルの理念はぶれない。委員の発言は、短期・中期・長期計画を立てて進めることが大切ということだと思う。理念がはっきりしていて素晴らしいので、整理しながら出直していただければ素晴らしいものにつながると思う。

[説明者]私は物事を考える時に戦略から攻めることをしないので、まず鉄砲を撃ってみるが、仲間の中でも、地域のことを考えている者や、海外に目を向けている者もいて、だから手ん店のようなものも成功できている。これから戦略を練っていきたいと思う。

(3) 閉会

4 第2回議事 【非公開】

(1) 評価

助成の可否について

[委員長] 各委員の評価結果をとりまとめたところ、『「工芸のまち」プロジェクト発足にかかる情報発信事業』については、当助成事業の採択候補事業の選定基準を満たしておらず、もう1つの『だれもが行きたくなる“まち”づくり―「八木山テラス」』事業についてはこれを満たす結果となった。この結果を基に、基本的には採択候補事業の選定基準を満たした『だれもが行きたくなる“まち”づくり―「八木山テラス」』事業を太白区まちづくり活動助成事業として採択候補事業とすることとしてよろしいか。

[各委員] 異議なし。

申込事業の助成金額に係る協議内容は以下のとおり。

「だれもが行きたくなる“まち”づくり―「八木山テラス」

助成額について、草刈り用品整備費や谷地・花壇整備費の内容を事務局で精査のうえ減額調整し、確定作業を進めていただきたい。

5 閉会